

# 『みどりのきずな』再生プロジェクトについて

## ●背景

東日本大震災の津波により、青森県から千葉県にかけての海岸防災林約140kmが被災。海岸防災林は、潮風や飛砂から農地や宅地等を保全するとともに、津波に対しての一定の被害軽減効果を有するもの。被災地の復旧・復興に向けて、海岸防災林の早期の復旧・再生が必要。

また、津波で膨大な量のがれきが発生。その早期の処理が求められている。

## ●取り組み方針

がれき処理を促進する一環として、海岸防災林の復旧・再生に、がれきを分別・無害化し、安全が確認された再生資材を盛土材等として積極的に活用する。加えて、盛土によって、高さ3～10m、幅50～200mの規模の海岸防災林を整備することで、災害による被害の軽減効果を大きく強化する。

## ●プロジェクト構想の名称について

被災地と被災地を支援する方々（NPOや企業による植林など）をつなぐ絆もあれば、被災地の人々の間をつなぐ絆（メモリアルづくりによる記憶の共有）や、大震災を経験した今の世代と未来の世代をつなぐ絆（安心・安全を未来に遺す）、さらには人間と自然とをつなぐ絆（人間と自然との共生）もある。

今回の海岸防災林の再生を通じ、そうした様々な絆を形にしていくという意味を込めて、「『みどりのきずな』再生プロジェクト」と命名。

## ●復旧工事に向けて

海岸防災林の再生については、既に、青森県、千葉等において事業に着手しているが、準備の整った箇所から順次手続きを進め、今年度中に約50kmについて事業に着手する見込み。

## ●がれきの利用について

大量に発生したがれきの処理に寄与するため、安全性が確認されたがれきの再生資材も海岸防災林の再生に積極的に活用する予定。具体的には盛土材として、コンクリートくず、津波堆積物さらには瓦くず等も積極的に利用。

## ●植栽について

地盤の復旧のための盛土など基盤造成をした上で、樹木を植栽。植栽樹種については、地域の植生などの自然条件や地元のニーズも考慮しつつ、海岸の最前線には潮風等に耐性のあるマツ類を主体とし、潮風等の影響が少なくなる陸側は生物多様性を保全する観点などから、マツ類のほか、十分な樹高となるカシワ、タブノキ、コナラ等の郷土樹種の植栽を検討していく予定。こうした植栽を通じて、地元の多種多様な植生に恵まれた鎮守の森のように未来に残していく。植林活動については、NPOや企業等のボランティアによる協力も得ながら進める予定。

# 『みどりのきずな』再生プロジェクト構想

ガレキを再生・利用し、地域に安全と安心を与える  
海岸防災林を復旧・再生

・青森県～千葉県で約140kmにわたる被災海岸防災林

・今年度中に約50kmの復旧事業を実施

・地元住民・NPOや企業と連携した植林活動

# ガレキを活用した海岸防災林の復旧・再生

海側

陸側

3 m ~ 10 m 程度

分別・無害化された再生ガレキなど  
(コンクリートくず、津波堆積物、瓦など)

50 m ~ 200 m 程度

